

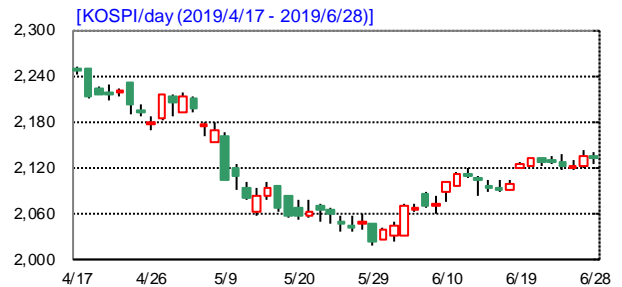


【韓国】 総合指数は週間で0.2%高と4週続伸、今週は神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.2%高と小幅ながら4週続伸した。週明けから6月26日まで小動きだったが、米中首脳会談が29日に開催されると伝わった27日に0.6%高となり、週ベースでの上昇を確保した。同日終値は5月8日以来ほぼ1カ月半ぶりの高水準。ただ、週末の20カ国・地域首脳会議（G20大阪サミット）の結果を見極めたいとして売買を見送る気分も漂い、相場全体の方向感は乏しかった。週間で上昇した主な銘柄は半導体のSKハイニックス、自動車部品の現代モータース、起亜自動車。下落した銘柄は小売りのイーマート、医薬品のセルトリオン、化粧品販売のアモーレパシフィックなど。今週は神経質な展開か。米中協議や北朝鮮問題の進展に対する期待が好材料になる半面、対日関係の悪化が上値を抑えそうだ。

▼指数チャート

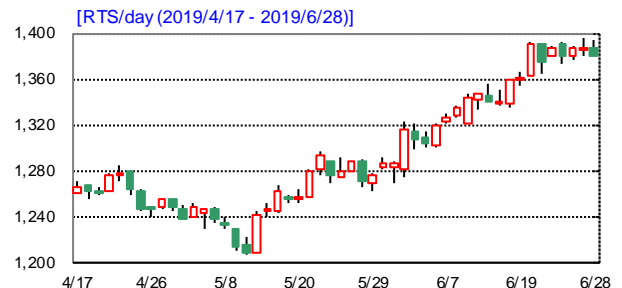


【ロシア】 RTS 指数は0.4%高と7週続伸、今週は貿易摩擦緩和期待が追い風か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.4%高と7週続伸。原油相場の上昇や米中貿易摩擦の緩和期待、国内景気見通しの改善が買いを誘った。週末のG20大阪サミットでの米中首脳会談への期待が高まる中、指数は原油高などを好感し、週明けから堅調に推移。前週までの続伸で上値では利益確定売りが強まったものの、ロシア中央銀行が4-6月期の成長率について0.5-1.0%に加速するとの予測を発表したことも好感された。指数は27日に1396.19ドルまで上昇し、2014年7月以来、約5年ぶりの戻り高値を更新した。個別銘柄では、石油のスルグトネフテガス（2.0%高）、天然ガスのガスプロム（1.6%高）、ノバテック（1.3%高）などの上昇が指数を押し上げた。今週は米中通商協議の再開決定を受け、貿易摩擦の緩和期待が買いを促すか。

▼指数チャート

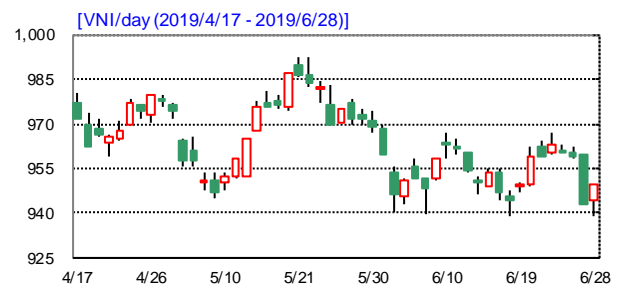


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.0%安と反落、今週は押し目買いに期待

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.0%安と反落。米中通商協議の進展観測が強まる中、貿易摩擦で恩恵を受ける公益株が売られ、指数を押し下げた。週明け24日は金融株や不動産株のけん引で、前営業日比0.4%高となったが、その後は27日まで3日続落。米中が貿易戦争の一時休戦で合意したとの報道を受けて米中通商協議の進展観測が高まり、企業が中国からベトナムに製造拠点を移す動きが停滞するとの見方が強まった。水力発電のSesan4Aハイドロパワーが10.0%安、石油・ガスの精製・販売のペトロベトナム・ガスが7.6%安となったほか、時価総額上位のヴィエティンバンク（8.9%安）、ピナミルク（2.0%安）などの下落が指数の重しとなった。今週は企業のベトナム移転期待の後退が懸念材料となるが、押し目買いも期待できるか。

▼指数チャート



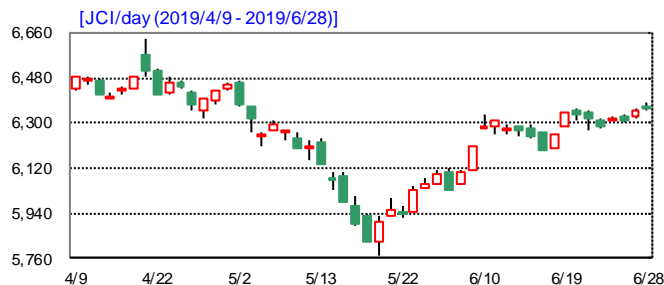
本資料は、当社が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示したすべての内容は、当社で入手した資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。本資料の利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。本資料で記載・掲載している数値および材料などは、会社発表資料のほか各証券取引所、弊社提携先などのデータに基づき作成したものです。

【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.7%高、米中貿易戦争の一時休戦報道を好感

ジャカルタ総合指数は週間で 0.7%高と 5 週続伸。6 月月間では 2.4%高。先週は不安定な値動きが続いた。週初の 24 日は 5 月の貿易収支が市場予想から上振れし、2 カ月ぶりに黒字に転じたものの材料視されず、指数は 3 営業日続落。25 日は反動で買われたが、26 日はパウエル FRB 議長が前日の講演で、トランプ米大統領の早期利下げ要求をけん制したことが東南アジア市場からの資金流出につながり反落した。一方、27 日は米中両国が貿易戦争の暫時的な休戦に合意したとの香港紙の報道を受けて反発すると、28 日も続伸して取引を終えている。今週は 1 日発表の 6 月の CPI に対する市場の反応が焦点となる。

▼指数チャート

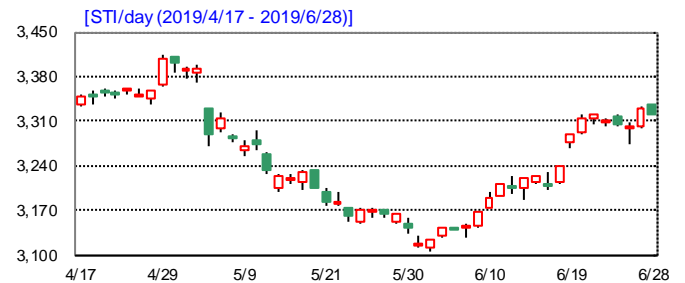


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.01%高、今週は 6 月の製造業 PMI が焦点

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.01%高とほぼ横ばい。6 月月間では 6.5%高。先週は週初からさえない値動きが続いたが、後半の買い戻しが指数を支えた。週初の 24 日は金融株を中心に利益確定売りが出て、5 営業日ぶりに反落。その後も買い材料に乏しく、26 日は 5 月の鉱工業生産が前年同月比 2.4%減と市場予想をやや下回ったことが嫌気されて 3 日続落したが、27 日は米中貿易摩擦緩和に対する期待感から買われ、反発した。ただ、28 日は再び反落して引けている。今週は前週末の会談で米中首脳が貿易協議の再開に合意した効果が期待される。3 日の取引終了後に 6 月の製造業 PMI が発表される予定。

▼指数チャート

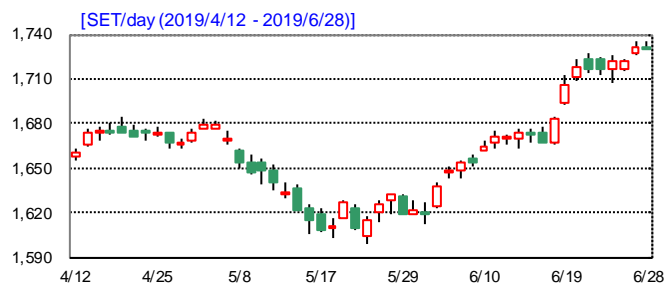


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.8%高、NY 原油先物の上昇でエネルギー株に買い

SET 指数は週間で 0.8%高と 6 週続伸。6 月月間では 6.8%高。先週はおおむね堅調に推移した。週初の 24 日は小幅ながら続落してスタート。一方、25 日は 5 月の鉱工業生産が前年同月比 4.0%減と市場予想から下振れしたものの影響は軽微で 3 営業日ぶりに反発した。26 日は中央銀行の定例会合で政策金利が市場予想通り 1.75%に据え置かれ、指数も前日からほぼ変わらずで推移。27 日は米原油在庫の大幅減少を受けて前日の NY 原油先物が上昇した効果でエネルギー株が指数を支えた。ただ、28 日は米中首脳会談を翌日に控えた様子見で 4 日ぶりに反落している。今週は 1 日発表の 6 月の CPI に対する市場の反応に注目。

▼指数チャート

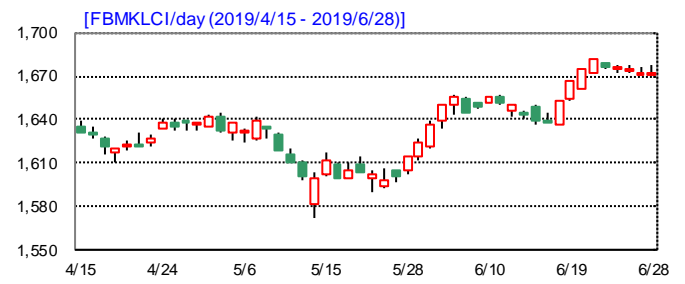


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.6%安、今週は 4 日に 5 月の貿易統計発表

クアラルンプール総合指数は週間で 0.6%安と反落。6 月月間では 1.3%高。先週は小幅なレンジでもみ合った。週初の 24 日は前週の反動で通信株を中心に売りが出て、指数は 5 営業日ぶりに反落。その後も週末に G20 サミットを控えた様子見で 28 日までさえない値動きとなった。26 日に発表された 5 月の CPI 上昇率は前年同月比 0.2%と低い伸びが続いている。今週は 4 日に 5 月の貿易統計が発表される予定。外部要因では前週末の NY ダウが目前に控えた米中首脳会談での貿易協議前進に対する期待感で 4 日ぶりに反発した動きや、会談で米国による対中追加関税が見送られたことが相場の支援材料になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手した資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。